

えぐね

「えぐね」は、日本三大散居村の地、胆沢扇状地の屋敷の北西側に木を森のように植えて、冬の季節風から屋敷を守る防風林です。快適な住環境を形づくり、日本の原風景を代表する景観を生み出しています。本校が胆沢の地や人々にとってなくてはならない「えぐね」のような存在であり続けたいと願い、校報の名前にしています。

夏休みを終えて

たくさんの取組がありました。陸上練習や部活動では、技術向上をめざして熱心に活動を進める姿が見られました。活動後に行う部ごとの清掃にもしっかり取り組みました。家庭での生活を含め、普段取り組めないことにも挑戦できたと思います。暑い中頑張った力を大切にしてほしいと思います。



上位大会での活躍

吹奏楽部は、県吹奏楽コンクールでまとまりのある演奏を披露し、銅賞を受賞しました。陸上では、東北陸上競技大会2・3年男子1500mに高橋 陽さんが出場し、雨の中自己ベストを更新しました。ソフトテニスでは東北

中学校大会の女子個人に八島陽菜・氏家華鈴組、菅原望夢・渡邊侑莉組が出場し、菅原・渡邊組が3回戦に進出しました。それぞれの場所、舞台上で力を発揮してきたみなさんに拍手を贈ります。

健康管理・熱中症予防



(保健室前の掲示)

学期はじめで、生活リズムが整うまでは、健康面を意識した生活をしたいところです。天気予報に注意しながら、これまで通りの検温や健康観察、服装の調整、食事と睡眠などに気を配って生活してほしいと思います。

2学期のはじめに

始業式では、次のような話をしました。

夏休みも2学期も1日24時間であることに変わりはありませんが、今日からは学校で過ごす時間が長くなります。振り返りと共に

切り替えをしっかりと行い、生活を始めてほしいと思います。また、生活が変化するタイミングで、新しいことにチャレンジすることもしやすい時です。夏休み中にできたこと、完了したことを踏まえて、2学期のスタートを上手に進めてほしいと思います。

2学期の始まりにあたって皆さんに伝えたいことは、できないことやわからないことを大切にしてください、ということです。できないことはできないし、わからないときはわからないのです。その上で、どうしたら…、どこまでなら…、だれとなら…、いつなら…、どこでなら…、などの点を意識して生活や学習に取り組んでほしいと思います。自分にとっての課題が明確になれば、解決の道筋も見えてくるものだからです。

同時に、隣の席の人、同じ活動をしている人と一緒に、どうしたらできるようになるか、わかるようになるかに取り組み、共に工夫できる胆沢中生であってほしいと思います。

社明運動作文 優秀賞

今年度の胆江地区社会を明るくする運動作文コンテストで、芳賀惟舞紀さんが優秀賞を受賞しました。受賞作文は「思いを伝えること」と題して、コミュニケーションの大切さと難しさを書いたものです。受賞おめでとうござ

います。

進路を考える その7

今回は、自分が将来、何かの職業や仕事に就いて働きたいか、また、就きたい仕事は決まっているかについての質問です。

調査10 将来就きたい職業や仕事

・はっきり決まっている	25.4%
・おおそ決まっている	41.4%
・まだ決まっていない	33.2%

調査9 将来の労働意欲

・働きたいと思っている	86.3%
・少しは働きたいと思っている	10.4%
・あまり働きたいとは思わない	2.1%
・まったく働きたいとは思わない	0.9%

結果を見ると、殆どの生徒は少なからず働く意思や意欲をもっているようです。また、およそ3人に2人の割合で、明確ではないかもしれないけれど、現時点での就きたい職業が決まっていると回答しています。

なりたい自分があるというのはとてもいいことだと思います。そこを出発点として、具体的な事柄を検討してみることが出来るからです。そうでない場合でも、あわてる必要はなく、今好きなことや今興味ある分野について働くことを検討してみるのによいと思います。

私の場合、なりたかったのは、鉄道の仕事、とんかつ屋、新聞記者などでした。教員になろうと思ったのは、大学の後半でした。